

SUPERBIKE

EXtra, EXpert and EXtreme

EXPRESS--

MFJ SUPERBIKE EXPRESS
2013 Round 1 MOTEGI

1



JSB 1000
JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

秋吉耕佑が虎視眈々と開幕ウインを狙う! 高橋巧は、まさかの転倒で10番手スタート!! 満身創痍の中須賀、柳川、加賀山は我慢のレース

(写真) ポールポジション獲得後アピルする秋吉耕佑

いよいよ全日本ロードレース選手権の2013年シーズンがスタートした。開幕戦ということで木曜日から特別スポーツ走行が行われ、JSB1000クラス以外は、非公式ながらコースレコードを更新するタイムがマークされており、土曜日の公式予選での走りに注目が集まった。

JSB1000クラスは、名門ヨシムラが津田拓也を起用し4年振りに全日本に復活。TEAM GREENは、昨年のJ-GP2クラスチャンピオン渡辺一樹が加入し2台体制となり、さらにレベルの高いレースになることは、間違いないだろう。しかし、開幕前にケガを負ったライダーが出てしまった。その筆頭が、ゼッケン1をつける中須賀克行だった。中須賀は、3月4日の鈴鹿テストの際、2コーナーで転倒を喫し、左肩を脱臼。メディカルに運ばれるが肩が大きくずれていたため痛み止めを打って入れたと言う。その後、事前テストも走るが、ベストには、ほど遠い状態でレースウィークを迎えていた。また、柳川明は、事前テスト初日に3コーナーで進入ハイサイド転倒。腰椎の横突起を4カ所骨折してしまい、こちらも満身創痍。さらに加賀山就臣も昨年のオートボリスで負ったヒザの状態が思わしくなく再手術し、退院したのが3月21日と、まさに開幕直前だった。3人の優勝候補が、万全の状態ではないため、事前テストから調子のいい高橋巧、そして韋駄天・秋吉耕佑がレースウィークを引っ張って

いく形となった。

ノックアウト方式予選は、今年から昨年までの3セッションから2セッションでとなった。第1セッションでは、まず全車がアタック。第2セッションは“トップ10チャレンジ”という名の通り10台のみが進出できる。まず40分間で行われた第1セッションでは好調の高橋がトップタイムをマーク。秋吉、津田、中須賀、藤田拓哉、渡辺、柳川、山口辰也と続き、清水郁己が9番手に食い込む健闘を見せた。そして最後の10番手の椅子を加賀山が確保し、トップ10チャレンジに進出した。

予選は、ドライコンディションだったが冬のような寒さとなり、路面温度は約20度しかなかった。各ライダーは、慎重にペースを上げていくものの、トップ10トライアル開始早々に高橋が3コーナーでまさかの転倒。その直後にいた津田もコースアウトするが、転倒はせずにコースに復帰した。高橋は、そのままセッションを終え、まさかの10番手。決勝は4列目からスタートすることになってしまう。

そんなライバルを尻目にポールポジションを獲得したのは、秋吉耕佑だった。2セッションとなったノックアウト方式予選は、Q1こそ高橋巧の後塵を拝していたものの、冷静にアタックに入るとトップ10チャレンジでは3周目のアタックで1分50秒385をマークしポールポジションを獲得した。

「コンディションが難しい状況でしたし、絶対に

転ばないように走っていました。チームがよく頑張ってくれているので、マシンもいい状態になってきています。去年は、今日より路面温度が高いときに転倒してしまったのですが、未だに原因が分からないので慎重に走っていました。決勝は、ドライでも雨でも勝ちに行くだけです」と秋吉。韋駄天・秋吉が開幕ダッシュをかけることができるか!?

2番手には、ケガが癒えない中須賀がつけた。中須賀は、トップ10チャレンジのセッション終盤にS字コーナーでまさかの転倒を喫し頭を強打してしまう。すぐに病院に運ばれ精密検査を受けるが、診断は問題なくレースには出場する予定。ただ、左肩の状態は相変わらず厳しく今回は我慢のレースになるだろう。それは柳川、加賀山にも言えることだが、上位陣の動向によっては表彰台に上がる可能性が出てくるはずだ。

気になるのは天気の方。雨となれば秋吉が速いだけに昨年の最終戦のようにトップを独走する可能性が高いだろう。ドライならば高橋の仕上がりがいいだけに、スタート直後に高橋がどれだけポジションを上げられるかが勝敗を分けるポイントとなる。また、ヨシムラの津田がどこまで秋吉に迫れるか注目したいところだ。2013年のオープニングレースを制するのは、果たして!? 注目のJSB1000決勝レースは、14:15スタート。

(佐藤寿宏)



予選2番手 / 中須賀克行



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

ポールポジション:

#4 秋吉耕佑 1'50.385

去年は気をつけて走っていたつもりが転倒してしまい大腿骨を骨折して悔しい思いをした。今回は、ブリヂストンさんのタイヤもすごく機能しているし、Honda CBR1000RRも、スタッフも、すごく気持ちが入っている。“ホンダの力で勝ちたい”という意志も伝わるし、乗っていて充実感もある。TSRのスタッフの志気も高いので、なんとしても今年は、しっかり戦っていきたいですね。決勝は天気が悪くなりそうですが、天気に負けない走りを心がけていきたい。自分のマシンは雨に強いので安心して、チームも雨のセットアップも優れているので申し分ないですね。あとは自分が応えていければ問題はないと思っています。



予選3番手 / 津田拓也

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

絶好調の渡辺一馬がコースレコードを大幅更新してポールポジション獲得!



ST600クラスは、気温6度、路面温度が7度、ウェットパッチが少し残る状態でセッションが始まった。まずは亀谷長純、小山知良らが2分を切るタイムでモニター上位に付ける。稲垣誠が立て続けに1分57秒、56秒とタイムを刻み、トップに浮上。セッションの中盤以降は路面がほぼドライとなり、各ライダーともドライタイヤでのアタック開始となった。

中本郡、大崎誠之が56秒台をマークしてトップを入れ替えながらアタックを続ける。その後練習走行から絶好調の渡辺一馬が55秒684をマークして一気にトップ浮上。さらに次の周回では54秒634と、コースレコードを大きく更新してトップを不動のものにした。2番手には中富伸一が55秒537、3番手に岩崎哲朗が55秒727。4番手にチャランボン・ポラマイが55秒852、稲垣が55秒966、大崎が55秒982と続いた。



ポールポジション:#6 渡辺一馬 1'54.634

J-GP3の予選タイム見てドライタイヤで行けると思った。でも同じチームの菊池さんや小室さんから、まだ濡れている箇所があると教えてもらっていたので、時間が経過すれば間違いなくコンディションがよくなると思いきや序盤はピットで待機して、周りのタイムが上がってくるのを確認して、行けるという確証もってからアタックに入りました。ベストなコンディションであれば1分53秒台も出せる仕上がりになってきたと思います。チームと多くのスポンサーさんのおかげで、シーズンオフの間に、すごく充実したトレーニングをさせていただけました。今までで一番、順調に準備を進められたというのが、この結果に繋がったと思います。

J-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

長島哲太がレコードタイムを更新 堂々のクラス初ポールをゲット!



セッション序盤はデチャ・クライサーが1分58秒台でトップという状況。その後、長島哲太が56秒169に入れてトップに浮上。その後は高橋英倫が55秒台に入れてトップを奪うと、その頃から本格的なアタックが開始された。

後半に入ると浦本修充、井筒仁康、生形秀之ら上位陣は55秒台で続く。クラスを転向した後、テストでも好調だった長島も55秒5までタイムを更新すると、その次の周で一気に53秒975までタイムアップ、レコードタイムをコンマ5秒上回る堂々のタイムを記録して再びトップに立つ。そのまま長島がクラス初のポールポジションを獲得した。

他のライダーも終盤に続々とタイムアップ。デチャが54秒895で2番手、昨年もてぎ開幕戦の覇者、浦本が54秒943で3番手、生形が54秒983で続き、ここまでが54秒台となった。



ポールポジション：#45 長島 哲太 1'53.975

テストで出した1分53秒7を超えたかったですね。気温が上がらなかったからかコーナーの進入でリアが流れていましたが、何とかまとめられてよかったです。自分の希望通りTSR2というマシンを用意いただき、チームやテルルの社長、周囲の方々に、すごく感謝しています。シーズンオフには、ケニーランチにも参加させていただき、ダートトレーニングではスライドや、J-GP2に必要な部分を学べたので、もてぎでテストをしたときから調子よかったです。ただ、決勝のバトルはJ-GP3とはまったく違う展開になると思うので、付け焼き刃では、なかなかうまくいかないでしょうね。自分の理想である“逃げるレース”ができるように頑張ります。

J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

國峰啄磨が激しいアタック合戦の末 全日本初のポールポジション!



ウェットパッチが残るハーフウェット路面で始まった40分×1回のJ-GP3公式予選。セッション序盤は山田誓己が2分7秒台でトップに付けていたが、路面が乾くに連れてタイムも上がり始め、次々と更新されるタイムとライダー。

セッション終盤にかけて激しさを増したこのアタック合戦は、まずは山本剛大が6秒台に入れてトップに浮上。その後もてぎを得意とする國峰啄磨がトップに立つが、山本が5秒台に入れると國峰は4秒台でトップを奪い返すという目まぐるしい展開。結局、このアタック合戦を制したのは、最後に只一人2分2秒435と2秒台に入れた國峰で、初ポールポジションを獲得した。

2番手は山本で2分3秒457、ゼッケン1の徳留真紀が終盤に一気にポジションを上げ2分3秒823で3番手、亀井雄大が4秒159で4番手、誓己が4秒324で続いた。



ポールポジション：#55 國峰啄磨 2'02.435

(晴れていれば)1分58秒台を狙いたかったですね。走り出しは全体的に(路面が)濡れていたのでレインタイヤで行ったけれど、だんだん路面が乾いてきました。ピットインしたときに仲城(英幸)さんからスリックタイヤで行ったらと言われ、メカニックや監督と相談して替えたら、すごくグリップしてくれてアタックすることができました。第2セクターでひっかかってタイムを落としてしまいましたが初めてポールポジションを獲得してうれしいです。金曜日の走行で1分59秒2が出ているので58秒台も見えてきています。今年はチームを移籍して、いいバイクを与えてもらっています。レースはできればドライでレコードを更新して、チームの皆さんに恩返ししたいですね。



●予選:天候/曇 路面/ドライ 出走34台
●決勝スタート/15:15(19周)

Table with 5 columns: Pos No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists race results for JSB 1000 class.

以上予選通過車両
93 河野 浩之 CLUB NEXT CBR1000RR 2'03.357
94 喜多田 学 (有)成田総合サービス+ストラトス 1199Panigale 2'05.503



●予選:天候/曇 路面/ドライ 出走36台
●決勝スタート/11:40(18周)

Table with 5 columns: Pos No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists race results for ST 600 class.

Rマークの車は、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは 1'55.085
予選通過基準タイム(110%) 2'06.097



●予選:天候/曇 路面/ハーフウェット 出走40台
●決勝スタート/10:30(16周)

Table with 5 columns: Pos No., Cls., Name, Team, Machine, BestTime. Lists race results for J-GP3 class.

以上予選通過車両:
Y=YouthCup登録ライダー
※ 賞典外出場
予選通過基準タイム(110%) 2'14.678



●予選:天候/曇 路面/ドライ 出走20台
●決勝スタート/14:05(18周)

Table with 5 columns: Pos No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists race results for J-GP2 class.

以上予選通過車両:
Rマークの車は、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは 1'54.405
予選通過基準タイム(110%) 2'05.372

INFORMATION



今年も全日本ロードレース完全無料放送!!

2013年シーズンも全日本ロードレース選手権はシリーズ全戦をレ
ース開催8日後に「BS12 TwellIV(トゥエルビ)」で完全無料放送さ
れます。現場ではカバーできなかったシーンや迫力のバトルをあらため
てお楽しみください!!

■放映スケジュール

開幕直前特集 4月1日(月) 21:00~21:54
第1戦ツインリンクもてぎ 4月8日(月) 20:00~20:54

ますます充実するインターネット動画!!

USTREAM コース監視カメラの映像と実況アナの音声で予選・決勝をライブ配
信! スマフォ対応です。

YouTube YouTube「MFJ SUPERBIKE オフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後
のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

MJF Live CHANNEL TV収録用高画質映像を決勝レース
終了後約1時間後に配信!

詳しくはファンサイトで → http://superbike.jp/